

抑草剤による水田畦畔雑草管理

農業センター

1 取り上げた理由

水田畦畔用抑草剤について検討した結果、実用性が認められたので参考資料とする。

2 参考資料

1) 薬剤名、主な特性及び使用方法

グラスショット液剤

- a 有効成分：ビスピリバックナトリウム塩 3.0%，
- b 性 状：淡黄色澄明水溶性液体
- c 毒 性：人畜毒性 普通物，魚毒性 A類
- d 適用場所及び対象雑草名：水田畦畔 一年生雑草及び多年生雑草
- e 使用方法

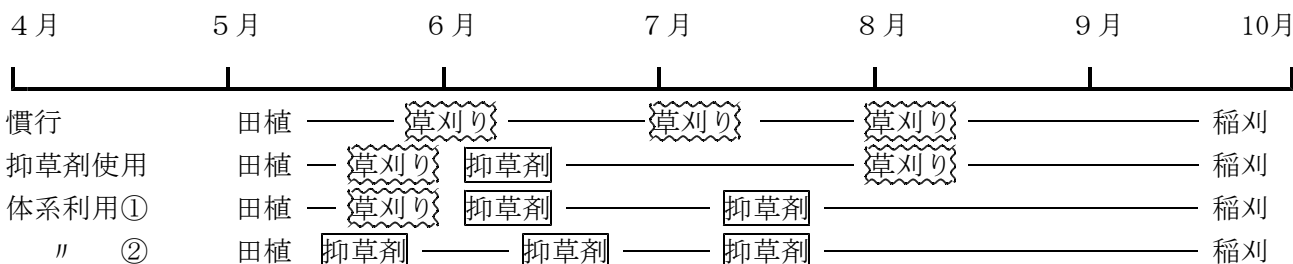
a) 使用時期及び回数：雑草生育初期（草丈10cm）及び草刈り後10～20日の雑草再生期
（ただし収穫60日前まで，使用回数3回以内）

b) 使用量：10 a 当たり300～500ml 希釈水量100ℓ 少量散布水量25ℓ

なお、短辺が30m，長辺が100mの30 a 圃場の場合，散布巾を0.7mとすると全畦畔は $0.7 \times 260 = 182\text{m}^2$ となる。その場合使用する薬量は100ml，希釈水量は約20ℓである。

c) 散布方法：水稻にはかからないように，雑草の茎葉全体に均一に散布する。散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがある。展着剤の加用の必要はない。少量散布は専用ノズルを使用する。

2) 使用体系



3) 対象地域 県下一円。

3 利活用の留意点

- 1) 低温下では効果の発現が遅れることがある。
- 2) れんこん，くわい，いぐさ，せり等の生育を阻害するおそれがあるので注意する。
- 3) 草刈りを行わないで散布すると，草種により効果が不十分となる場合がある。
- 4) 草種により抑草効果が異なるり，枯殺に至る草種が優占している畦畔では裸地化する。また，連用すると特定の草種が優占する（別表－1）。

（問い合わせ先：農業センター水稻直播プロジェクトチーム 電話022-383-8123）

別表－1 草種による抑草効果の違い（農業センター）

	一年生イネ科雑草	多年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草
抑草大 (40日 以上)	ノビエ, メヒシバ	チガヤ, ススキ	オオイヌタデ, ハルジオン, ツユク サ	ヨモギ, スギナ シロツメクサ
枯 殺	スズメノテッポウ		ハコベ, ナズナ	オオバコ, セリ

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新資材による育苗及び成長調整剤並びに雑草防除に関する試験

平成5～7年度 農業センター

農薬展示圃試験

平成11年度 迫, 石巻地域農業改良普及センター

2) 参考データ

表－1 抑草効果（農業センター）

年度	処理時期	処理量	抑草期間
平成5	6月28日	30ml/a	40日
	6月28日	40ml/a	40日
	6月28日	50ml/a	45日
平成6	6月8日	30ml/a	40日
	6月8日	40ml/a	50日
	6月8日	50ml/a	50日
	6月8日→7月13日	40→40ml/a	70日
平成7	6月8日	30ml/a	40日
	6月8日	40ml/a	45日
	6月8日	50ml/a	50日
	6月8日→7月13日	40→40ml/a	70日

注) 抑草期間は雑草の草丈が30cm程度まで伸長する期間。
水稲への影響は通常の畦畔処理をした場合。

表－2 抑草効果（農薬展示圃試験成績）

普及センター	年 度	処理時期	処理量	抑草期間	総合評価
迫	平成11	6月12日	500ml/10 a	40日	A
石巻	平成11	6月3日	500ml/10 a	30日以上	A

注) 総合評価基準 A: 普及上問題なし。

(参考) 参考価格 500ml入り 2,850円。30 a 圃場で2回使用する場合、農薬費は約1,140円である。
処理時間 抑草剤散布時間は10 a 圃場の畦畔当たり10分程度である。

3) 発表論文等

平成12年度宮城県除草剤使用基準に採用